AMDA ジャーナル ダイジェスト

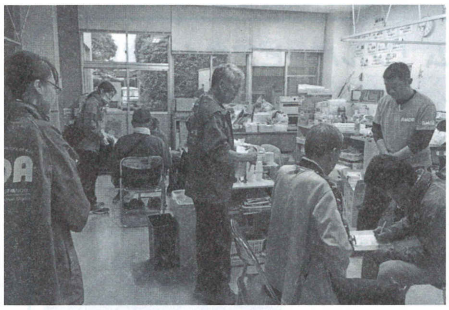
発　行：2016 年 6 月　No.46　　定価 150 円
発行元：〒 700-0013　岡山市北区伊福町 3-31-1
認定特定非営利活動法人 アムダ：AMDA
TEL 086-252-7700　FAX 086-252-7717
E-mail:member@amda.or.jp
編　集：AMDA ボランティアセンター
ホームページ：http://www.amda.or.jp

熊本地震　被災者に対する緊急医療支援活動

概　要

4 月 14 日午後 9 時 26 分、熊本県熊本地方を震源とするマグニチュード 6.5 の大地震（前震）が発生、熊本県内に甚大な被害をもたらしました。続いて 28 時間後の 16 日午前 1 時 25 分、前震とほぼ同じ場所を震源とする本震（マグニチュード 7.3）が襲い、建物の崩壊や土砂崩れによる被害が拡大しました。

震度 7 クラスの大地震が短時間に 2 度も重なったのは、国内では観測史上初めてのケースです。死者は 49 人、行方不明 1 人、負傷者 1,684 人。建物被害は 2 万 6 7 8 1 棟と東日本大震災、阪神淡路大震災に次ぐ規模となりました。（消防庁 5 月 24 日現在）



広安小学校の保健室で活動する
第一次、第二次派遣チーム

このような被害状況を受け、AMDA は連携協定を結んでいる岡山県総社市とともに、直ちに被災地への支援を決定。前震発生の翌日 15 日夜には第 1 次医療チームが避難所の広安小学校（熊本県益城町）に到着。先に益城町に入っていた AMDA 難波調整員（益城町出身）とともに、ただちに教室に避難していた人たちの回診を行いました。そして 16 日には広安小学校保健室を救護所として開設し朝から診療にあたりました。断続的に続く余震に住民らは不安を募らせ「建物の中は怖い」と車中泊をする人たちで広安小グラウンドはあふれました。

診療だけでなく、理学療法士や介護福祉士、鍼灸師も加わりました。介護度の高い高齢者の部屋には災害時用段ボールベッドを、また避難所トイレには簡易洋式トイレ「ラップポン」を整えました。長引く避難所生活により慢性疲労を訴える避難者にとって、鍼灸治療は心身共に落ち着ける時間となりました。

4 月 15 日益城町建物への被害の様子

AMDA は 6 月 1 日までにのべ 127 人の派遣メンバーとともに支援活動を行いました。地震から 1 か月が経過した現在は、熊本在住の鍼灸師による鍼治療を継続して行っています。　（2P へ続く）

母校での緊急医療支援活動　難波妙調整員の声（岡山県総社市在住・熊本県益城町出身）

4 月 14 日、熊本県で地震という AMDA 本部からの一報を受けて、「まさか益城町が」と信じられない思いで、実家の母に電話をしました。「生きとる、今、忙しか！」という声で無事を確認し、その日の未明、夫とともに益城町に向け車を走らせました。親族や友人を心配しながらの道中でしたが、医療支援活動を行う決心をしていました。15 日 9 時 30 分頃、益城町に到着。全壊した実家を目の当たりにしましたが、母が生きていたことを良しとして、心と頭を切り替え、益城町の災害対策拠点を数か所訪問し、母校である広安小学校を訪ねたときに、「AMDA の活動拠点は、この保健室！」と確信しました。

学校側から了承を得て、一人でも早く診たいという気持ちで、保健室を救護所にする準備をしながらチームを待ちました。15 日夜に AMDA 医療チームと総社市役所の職員の一次隊が到着し、避難所となっている教室一つ一つに医師が到着したことを伝えながら回診をしました。そして、その夜、16 日、1 時 25 分、震度 7 の本震が発生しました。ホテルの壁はひび割れ、水は漏れ出し、

難波妙調整員（中央）

生きた心地はしませんでした。被災しながらもチームは皆、少しでも早く保健室に戻りたいという気持ちを抑えながら、夜明けを外で待ち、早朝、広安小学校へ向かいました。保健室の棚は倒れ、物は散乱していました。片づけながら、診療を開始しました。益城町の誰もが地震とは無縁の地と信じていました。しかしながら、28 時間の間に 2 度も発生した震度 7 という大きな地震とその後も続く余震の影響で、救護所には怪我をした人に加え、その恐怖心と不安から心身への影響を受けている方が多く訪れ、一日の患者数が 70 人余りになったこともありました。

震災発生から 5 月 31 日まで、のべ 120 人を超える医師、看護師、薬剤師、鍼灸師、理学療法士、介護福祉士と多職種が、広安小避難所で行った緊急医療支援活動、益城町総合運動公園でのテント村救護室看護師派遣、シルバーピアさくら樹での介護福祉士派遣プロジェクト、そして現在も継続中の災害鍼灸プロジェクト等に、一丸となって被災した人たちの心に寄り添い、延べ 2041 名を支援することができました。町並みは崩れましたが、故郷の誇りは残っています。熊本の復興を信じ、熊本地震にご支援くださいました多くの皆さまに益城町出身者として心より感謝申し上げます。

● 熊本地震発生～医療チーム派遣

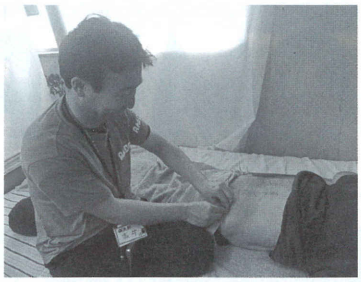
総社市役所での出発式

4 月 14 日の前震発生を受けて、AMDA は連携協定を結んでいる総社市とともに、直ちに合同チームの派遣を決定。翌 15 日の正午には総社市役所を出発しました。同日夜に熊本県益城町に到着した AMDA と総社市の合同チームは、避難所になっていた広安小学校に到着後ただちに教室にいる避難者を回診。広安小学校内は、コンクリート製の渡り廊下がひび割れていたり、建物への被害が甚大でした。本震を受けながらも、16 日朝には広安小学校に AMDA 救護所を開設し、診療を開始。

急性期には医師と看護師は 24 時間体制で、余震に見舞われながらも被災者に対し診療を行いました。

地元の医療機関や薬局の再開に伴って、5 月 5 日、広安小の救護所は看護師が駐在する救護室とし、救護室も 14 日をもって終了しました。

● 災害鍼灸プログラム


熊本在住の吉井鍼灸師

AMDA 医療チームは、長引く避難所生活で体の痛みや心身の不調などの症状を訴える人が増加したため、4 月 25 日から、鍼治療を AMDA 救護所内にて開始しました。テント村救護室でも鍼治療を行い、また「シルバーピアさくら樹」でも不定期に鍼治療を行いました。

頭痛や肩こり、不眠などに悩む人も多く、利用者さんからは、症状改善の喜びの声が届きました。また、鍼治療はプライバシーの守られた独立した空間で施術を行うため、避難者にとって癒しの時間であり、本音を話すことができます。

鍼治療は AMDA からの派遣鍼灸師と、熊本在住の 6 人の鍼灸師によって活動を行いました。5 月 26 日からは熊本在住鍼灸師のみによって週 3 日の施術となりました。熊本在住鍼灸師は、家の片づけや仕事を両立させながら、引き続き避難者の心身のケアにあたっています。

●「AMDA 南海トラフ災害対応プラットホーム」参加自治体テント村 AMDA 救護室

避難者へ健康相談を行う AMDA 看護師

AMDA と連携協定を結んでいる総社市が中心となり、同市の観光大使である登山家の野口健氏が寄贈したテントを 4 月 24 日、「AMDA 南海トラフ災害対応プラットフォーム」参加自治体である高知県・高知市・須崎市・黒潮町・徳島県・美波町・牟岐町・海陽町・総社市・丸亀市と今回新たに自治体連携に加わった備前市が職員を派遣し、熊本県益城町総合運動公園に「テント村」を開設。最多 156 世帯 571 人がテント村で生活を送ることになりました。そこで AMDA はテント村に看護師が常駐する救護室を開室しました。

看護師は救護室での健康相談のほか、要観察者の訪問も行いました。5 月には熱中症対策として、風通しの良いタープも設置されました。

AMDA 看護師は総社市のチーム、日本赤十字社医療チーム、保健師と情報共有を行い、テント村に避難する人々の健康管理を協力して行いました。

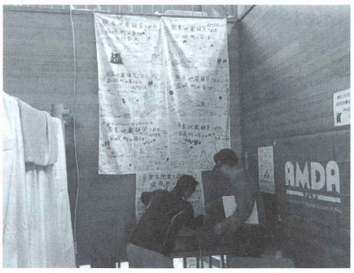
管理・運営は総社市職員が実施していましたが、梅雨期を前に浸水の恐れなどを考慮し、5 月末で閉鎖しました。

● 特別養護老人ホーム「シルバーピアさくら樹」

広安小学校に避難していた、日常生活に手助けを必要とする要介護者は一般の避難スペースである教室から、AMDA 救護所の保健室に近い一階の特別活動室に移動してもらいました。床で寝ることが体調の悪化につながる恐れのある人には「段ボールベッド」を導入しました。加えて AMDA から派遣した介護福祉士、理学療法士が生活支援、リハビリ支援を行いました。ADL（日常生活動作）を維持するため、「シルバーピアさくら樹」への移動を支援しました。この施設は、AMDA と広安小学校に避難していた高齢者の入浴支援を共同で行った経緯があり、益城町の公式な福祉避難所として認められました。

5 月 4 日からは岡山県老人保健施設協会と AMDA は合同で介護福祉士を福祉避難所への派遣を開始。5 月 26 日からは、岡山県老人福祉施設協議会からもご協力いただき、要介護避難者への介護支援を 5 月末まで継続して行いました。岡山県老人保健施設協会からは延べ 13 人、岡山県老人福祉施設協議会からは 3 人の介護福祉士にご協力いただきました。現地では避難者の入浴介助、トイレ補助、健康管理などに加え、散歩やクイズ大会も開催するなど心身のケアも行いました。

岡山からの応援メッセージを益城町避難所に届けました



広安小学校体育館に掲げられたメッセージ

AMDA はドラッグストアの株式会社ザグザグと連携協定を結んでいます。昨年のネパール中部地震に続き熊本地震でも協力いただきました。

5 月 14、15 日にコンベックス岡山で開かれた同社主催のザグフェス 2016 で、AMDA 中学高校生会とボランティアスタッフが、熊本地震被災者支援活動の写真などを展示するコーナーを開設しました。そこで、白い布を用意し、来訪者に熊本への応援のメッセージを書いてもらいました。予想を超える多くの方々がメッセージを書き、布は合計 7 枚になりました。家族連れら約 200 人は「熊本ダイスキ。早く元の生活に戻れますように」「岡山からずっと応援しています」などと熱い思いを記していました。

5 月 29 日、AMDA が活動する益城町の広安小学校の避難所である体育館に、岡山からの応援メッセージが掲げられました。

東日本大震災復興支援活動

東日本大震災に対して、AMDA は発災翌日から医療チームを派遣し、緊急医療支援を開始。2014 年 3 月までを「第 1 次復興支援 3 か年事業」、現在は「第 2 次復興支援 3 か年事業」として、復興支援事業を継続しています。

AMDA 大槌健康サポートセンター

昨年 12 月で創立 4 周年を迎えた同センターでは、これまで様々な世代・環境にある方々に対して心身の健康のサポート、コミュニティ構築支援など幅広い活動を行ってきました。

高台から眺める現在の岩手県大槌町の様子 ↑

AMDA 大槌健康サポートセンターでの活動の様子 ↓

そして、同センターの一部が、更に地元に根付いた活動を展開すべく、5 月より新団体「Tsubomi」として独立し、今年度は AMDA の業務委託として、「ママのための講座サロン」「食と音で奏でる心のハーモニー」「天然酵母パン作り教室」事業を継続展開することとなりました。5 月 22 日に大槌町中央公民館大会議室で、感謝とお披露目の催しを開催。これからは同センターと新団体でそれぞれの役割と特色を生かし、ともに尚一層の活動の充実を目指していきます。

大槌町在住の佐々木賀奈子鍼灸師は鍼灸治療、仮設独居被災者訪問など活動を継続しています。

その中で、熊本地震 AMDA 緊急医療チームの活動する益城町広安小学校避難所に駆けつけ 4 月 30 日から 5 日間、被災者への鍼治療を行いました。

◆鍼治療を受けられた方の人数	
2015 年 12 月	132 名
2016 年 1 月	108 名
2016 年 2 月	120 名
2016 年 3 月	120 名
2016 年 4 月	126 名
2016 年 5 月	87 名

被災地間相互交流事業 ～第 12 回復興グルメＦ－１大会 in 南相馬～

南三陸沿岸部一帯の商店街をはじめとした団体が復興に向けて一丸となり、情報や知恵を共有することで新たな復興への協力体制を形成することを目的として 2013 年 1 月からスタートした「復興グルメＦ－１大会」が、2016 年 4 月に福島県南相馬市で第 12 回大会をむかえました。

南相馬市で開催された第 12 回Ｆ - １大会

岡山からもボランティアバスを運行しました。ボランティアバスは、参加ボランティアが当日の運営、片付けまでを被災地の方とともに行い、復興に向けた「喜びの共有」をすることが大きな目的です。

ボランティアバスへの参加者は高校生から 70 代までと年齢層も幅広く、今回 30 名の参加がありました。初めての人とリピーターがほぼ半々の割合で、リピーターの中には全 12 回すべて参加する方もいました。16 日(土)大会当日朝、会場となった南相馬市鹿島生涯学習センターへ到着後、すぐにそれぞれの担当ブースに入り、商店街・グループの方から指導を受け、グルメの盛り付け、案内、笑顔での接客等、一人一人が一生懸命に活動しました。

次回の「第 13 回復興グルメＦ－１大会」へのボランティアバスの運行は、10 月 9 日を予定しております。参加申込、お問い合わせは AMDA まで。

7 月 8 日（金）、9 日（土）第 3 回災害鍼灸チーム育成プログラム開催決定

AMDA は、災害時における鍼灸治療の重要性を高く感じています。熊本地震でも、災害鍼灸プログラムを実施し、避難者の方々からとても喜ばれました。熊本地震でも活動した、AMDA 災害鍼灸ネットワーク代表世話人・今井賢治鍼灸師や、熊本の鍼灸師の方々も参加します。詳しくは AMDA の HP または事務局（086-252-7700）までお問い合わせください。

熊本地震で鍼灸治療を行う今井鍼灸師

日時：7 月 8 日 13:00 ～ 17:30
　　7 月 9 日 10:00 ～ 12:00
会場：岡山国際交流センター 5 階会議室 2
　　（岡山市北区奉還町 2 丁目 2 番 1 号）
募集対象：鍼灸師をめざす学生 および 鍼灸師 定員 30 名
参加費用：3,000 円（※宿泊費、交通費などの諸経費は自己負担）
応募期間：2016 年 6 月 30 日まで
　　（定員になり次第、募集を締め切ります。）

7 月 9 日（土）第 3 回 AMDA 南海トラフ災害対応プラットフォーム調整会議開催決定

発生が予測されている南海トラフ地震津波に向けて、AMDA では「AMDA 南海トラフ災害対応プラットフォーム」という地元の自治体や医療関連団体など関係者が集い迅速な医療支援を行うためのプラットフォームを立ち上げました。

今回行われる会議では、「派遣協力医療機関の紹介」「各避難場所の準備状況」「医療機関と避難所のマッチング」、また昨年実行した「輸送と通信のシミュレーション」実施報告など盛り沢山の発表だけでなく、医師である相馬市の立谷市長が、その貴重な経験を語ってくださいます。詳しくは、AMDA 事務局（086-252-7700）までお問い合わせ下さい。

日　時：2016 年 7 月 9 日（土）
　　13:00 ～ 18：00（受付 12：30 ～）
会　場：岡山国際交流センター　8F イベントホール
　　（岡山市北区奉還町 2 丁目 2 番 1 号）
参加費：無料（お席に限りがございますので、事前のお申し込みをお願いいたします）

南米エクアドル共和国地震　被災者に対する緊急支援活動

4月17日にエクアドル共和国エクアドル市を震源とするマグニチュード7.8の地震が発生。最大でマグニチュード5.1の強い余震も報告され、多くの被災者が瓦礫の下敷きとなる甚大な被害が予測される状況となりました（エクアドル政府4月18日発表）。また、エクアドル政府危機管理室によると、この地震による死者は570人、負傷者7,000人以上、行方不明者155人、被災者は2万5,000人以上にのぼりました（4月21日発表）。

こうした状況を受け、AMDAは医療支援活動を決定。本部からニティアン・ヴィーラバーグ調整員1人を派遣し、現地大学Universidad San Francisco de Quito (USFQ)と共同で支援活動を行いました。

同調整員は23日深夜（日本時間午後1時半）、エクアドルの首都キトに到着。現地協力団体であるUSFQ関係者と協力し、ただちに西海岸の港町ペデルナレスに移動しました。同調整員が見たのは、瓦礫の山と化した町で、被害は全家屋の8割から9割に及んでいました。狭いスペースに大勢の避難者がおり、いかに感染症を予防するか、保健教育の必要性に迫られていました。

さらに、ペデルナレスは山沿いに点在する集落のため、支援物質が届いておらず、医療支援も十分ではありませんでした。そこで、活動の拠点をペデルナレスに置き、アムダ－USFQ合同チームは、大学の医師や看護師ら総勢17人で構成する医療チームを結成、活動を本格化させました。5月27日現在で、第9陣となる派遣者（医師、看護師、教育関連の専門家）が現地で支援活動を行っています。

エクアドル政府は5月2日に被災各地の学校を再開させる予定でしたが、非常事態下にあるため早くても7月まで延期することとなりました。

被災した子どもたちへの学習支援

そこで、AMDAとUSFQによる合同チームは同国北西部湾岸に位置するマナビ県ペデルナレスにある学校で、サマーキャンプ形式で子供達を対象とした教育プログラムを実施。学校再開が延期される中、子供達の日々の勉強の継続を可能にしています。5月15日に始まった学校プログラムは初日から120名の生徒を迎え、一週間後にはさらに20名の児童を迎えました。

■派遣者　ニティアン・ヴィーラバーグ／AMDAインターナショナル事務局長／調整員

ネパール中部地震　復興支援活動　　ネパール地震から1年

昨年4月25日にマグニチュード7.8の大地震に襲われたネパール中部地区。AMDAは被害発生の一報を受け、日本から医療チームを派遣。現地でAMDAネパールの医療チームと合流し、医療支援活動を行いました。緊急救援活動が終了した翌日の5月26日からは復興支援活動として途切れることなく支援を続けています。

今回の地震は山間部で特に被害が大きく、医療支援が届かない地域がありました。そこで、AMDAはトリブバン大学教育病院（TUTH）の災害医療支援委員会(ODMC)と合同健康支援プロジェクトとして、シンドゥパルチョーク郡病院に医療従事者を派遣し、一般診療とともに心理的な治療およびカウンセリングを無料で実施しました。

震災後のネパールでは心理カウンセリングを行える人材が不足。AMDAは日本医師会、ネパール医師会と合同でカウンセリングが出来るボランティアの養成講座を開催。418人の履修者が各地で活動しています。

車いすを贈呈するAMDA西嶋理学療法士

[障がい者支援]

地震で負傷し障がいを抱えた人々も数多く、AMDAは昨年7月から支援を続けています。ネパール在住のAMDA西嶋理学療法士が現地で車椅子製造技術の研修を行い、製造した車椅子や補助具を提供しています。障がい者らは台所で洗い物をしたり、トイレに行くことが出来るようになり、笑顔が増えています。

[防災意識啓発支援]

ネパールのTV局イメージチャンネルの3人のクルー一行が岡山の山陽放送株式会社の協力で日本を訪問。「日本の防災と復興」などについて学び、帰国後、ネパール国民の防災意識の啓発に努めています。

[地震被災者への慰霊祭]

地震発生から1年経った今年4月24日、AMDAネパール支部主催の慰霊祭（GPSP SMP）がバクタプル郡にある寺院で行われ、AMDA本部スタッフを含む50人が参加。犠牲者の冥福を祈り、1分間の黙とうを捧げました。

[トイレ建設]

AMDAネパール支部は、衛生環境の悪化による感染症予防のため、ゴルカ郡の公立学校2校のトイレ建設に着手しています。カナダのローズ財団とAMDAの資金協力により、現地のNGOと共同で行うものです。

2年次も障がい者支援をはじめ、被災者のニーズに合った適切な活動を継続していきます。

AMDAの活動は皆様からのご寄付で実施されています

認定NPO法人AMDAへのご寄付は税控除の対象になります。ご寄付の際にプロジェクト別のご寄付指定も可能です。

□ 書き損じハガキ、未使用切手を集めております。通信費の節約に役立たせていただきますので、ぜひご協力をお願いいたします。

VISA JCB PAYPAL

これまでのAMDAカードのほか、VISA・JCBなどのクレジットカードでのご寄附も取扱いできるようになりました。また新たにPAYPAL決済も導入しております。詳しくはWEBをご覧ください。

AMDAへの温かいご支援ありがとうございました。